

# 事前評価報告書

事業名: 「食とエネルギーの自給100%」を体験できるエコモーションの運営と木質資源の新しい価値の創出

実行団体: 百

報告者: 百

資金分配団体: 地球と未来の環境基金

実施時期: 2021年7月～2024年2月

対象地域: 宮城県柴田郡川崎町前川 腹帯地区・青根地区

直接的対象グループ:

間接的対象グループ:

## 概要

### 事業概要

地産地消のエネルギー(薪ボイラーによる熱、太陽電池と小水力発電による電気)を活用して運営する宿泊施設にて、地元で育てた作物を使った蕎麦打ちや餅つきなどの食品加工体験や、真似のできる「やさしいエコ」な暮らしを提供の中心とした宿泊事業を展開する。夜間は、宿泊客と地元民を対象としたバー営業も行う。

さらに、自社所有山林内の整備や、整備の中で生産された木材を使った製炭、今後の活用を想定した建材となる丸太の確保・生産を実施していく方針である。

### 中長期アウトカム

#### 【将来像1】

宮城県川崎町において、「百」の活動を通して森林の価値が再認識され、町内の山林を活用(炭・薪づくり、森林浴、きのこ原木等)したい人が増えている。その結果、町民の薪ストーブ利用や事業者による薪ボイラーの導入などが少しずつ普及しており、町内の木材の需要が高まっている。その需要に対応できるような木材を生産するための自伐型林業者の増加や、新たな木材の価値を生み出すような開発、薪を販売できるような拠点が整備され多くの方が集まる環境が整備されている。また、林業を営む人々が、林業だけではなく、別の仕事を個々に持ちながら、個々の強みを活かせるようなライフスタイルが形成されているのも川崎町ならではのライフスタイルである。さらに、町内の多くの森林で森づくりが展開されており、若い世代からシニアまで、幅広い世代が参加でき日常生活の中の楽しみの1つとなっている。

#### 【将来像2】

百の事業地である腹帯地区や青根地区の国道457号線については、森林整備の結果が実を結び、美しい里山が形成されている。ナラを中心とした広葉樹林が広がるとともに、人の手が加わることで形成される針葉樹と広葉樹の混交林、蔵王山までを見とおせる景色が形作られている。日常的に住民が里山で集まったり、来訪者が山歩きをするようになったり、都市住民や子どもたちが里山のすばらしさを体験するためのアクティビティを行っていたり、里山の利活用は多様になっている。里山と人々の距離は近くなり、生活に必要なものとして位置付けられるようになっている。そして、気候変動結果多発する台風などの自然災害により発生する風倒木の発生や停電などが発生しており、人々の生活に必要なインフラの確保が問題となっていたが、薪ストーブや薪ボイラーの導入によるエネルギーの確保、森林整備による風倒木の発生抑制など、森林整備による景観向上と防災レジリエンスに対する意識も高まっている。

### 短期アウトカム

間伐をはじめとした整備活動により、広葉樹の生育を促し、樹種の多様性が確保され、針葉樹と広葉樹による混交林が少しずつ形成され始めている。

林道を整備した山林を活用したい人材が増える

森林の活用や、「やさしいエコ」に取り組みたい人が増える

木材関連商品に興味を持ち、町内の木材から生産された薪や炭などの販売先が増え、木材需要が高まっている。

## 事業の背景

### (1) 社会課題

#### 【事業実施の背景1：ベーシックインフラの確立】

東北地方における一般的なくらしては、1ヵ月あたりの消費支出のうち約1/3を食料とエネルギーが占めている。また、ライフスタイルという点において、現代の生活では暮らしに必要なものを購入したり、娯楽を楽しんだりするために「働いて」いるが、働くことに時間を追われ、ライフスタイルを見直す人も多い。合同会社 百では、生活に最低限必要な「食」と「エネルギー」を自分たちで調達することにより生活の基盤を確保すること(ベーシックインフラ)、食とエネルギーの調達をするための活動の中で生まれる楽しさを共有し、人が心豊かに暮らすことのできる社会の形成を目指す。

#### 【事業実施の背景2：地域の木材を存分に活用できる地域の再生】

本事業地である川崎町腹帯地区や青根地区は、針葉樹と広葉樹の両方が賦存しており、これまで里山として炭焼きや素材生産など、多様な側面で活用されてきた。一方、地域の人口減少や少子高齢化に伴い、里山を整備する担い手が大幅に不足していること、里山整備が進められないことによるナラ枯れの進行など、里山景観が損なわれてしまう状況となっている。さらに、R1年の台風やR2年の大雨により、住宅地への大きな水害が発生し、その後背山林の水害対策としての機能が求められている。

このような課題を抱えた地域で、バイオマス利用や建材利用・炭焼きなど、地域の木材資源を存分に活用した取組を展開することで、地域の再生を図りたいと考えている。

### (2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況

特になし

評価実施体制

内部/外部	評価担当分野	役職等
内部	合同会社百	代表社員、業務執行社員
	合同会社百	業務執行社員
	合同会社百	業務執行社員
外部		

評価実施概要

評価実施概要
自己評価の総括

評価結果の要約

評価要素	評価項目	考察（妥当性）	考察（まとめ）
課題の分析	①特定された課題の妥当性	概ね高い	<p>本事業地である青根地区は広葉樹の割合が高い。そこで弊社では森林課題として、広葉樹林を対象として、自伐型林業の展開、そして森林景観の保全（ナラ枯れの抑制、針葉樹林における混交林の形成など）を推進していきたいと考えている。</p> <p>そのような考えの中で、ヒアリングの結果、川崎町で林業を行う上で“販路をいかに確保するか”ということが重要であるという認識が強いことがわかった。薪販売が町内よりも仙台市などの都市部への販売が多いこと、きのこなどの林産物の販売が放射線の影響により制限されていることが課題となっているようだ。</p> <p>弊社では、町内の木材資源を利用したエネルギーの確保を実現する（木材資源の利用率を高める）というゴールを掲げる中、薪としての販路を確保・拡大することがポイントとなると考えている。そのため、町内の薪ストーブユーザーの利用率を高めるということが一つ新たな課題になると考えられる。薪ストーブの利用に関する評価方法も検討していきたい。</p> <p>一方で、ヒアリングの中では、自伐林業の中で重要な役割を担う“道づくり”という視点はなかった。そのため、森林景観を保全するためにも、道づくりの必要性や技術を、弊社の事業を通じて発信していくことが課題であることが再認識された。また、実際に青根地区であった問題として、本年7月以降、道路脇の立木の風倒が3件ほど発生している。事故はなかったものの、一時的な生活道路の封鎖などが発生しており、町民からみた森林と生活の安全性との関連を意識する事例も発生している。より具体的な地区住民の森林に対する意識の検証も必要になる。</p>
	②特定された事業対象の妥当性	概ね高い	<p>本事業の中で、「食とエネルギーの自給」を発信するために、エコモーションの建設に関わるイベントの開催したり、農作業や薪割などの作業を手伝っていただける方を募ったりしてきた。多くの方が、本事業に対して興味・関心を持っていただいているのはもちろんであるが、参加者の属性を把握すると、現時点では弊社がこれまで築いてきたネットワークの中で、活動に参加していただいている方が多いことが分かった。その大きな割合を占めるネットワークとしては、“大学生”や“近年川崎町に移住した町民”や“その友人”の割合が多いことがわかった。そのような参加者へのヒアリングの中では、「コロナ禍での外での活動の自粛」や「森づくりに興味がある」、「今後の社会において、食やエネルギーの自給ができるようになりたい」といった意見が多く聞かれた。つまり、今後の地域社会を担う、または食とエネルギーの自給に取り組んでいきたい若い層を事業対象とすることは大きな意義があり、妥当性は高いと考えられる。現にこれまで移住につながっているケースもある。</p> <p>その一方で、活動に興味・関心は持っていただいているものの、青根地区の住民の多くは高齢者ということもあり、50歳代以降のイベントや活動への参加率はやや低いという状況である。また、青根地区以外の川崎町民の30・40代の参加率はさらに低い。今後、20～40代を中心とした関係者を増やしていくためにも、町内はもちろんのこと、仙台市や山形市などの近隣都市住民を巻き込むような取組を行っていくことが重要であると考える。</p>
事業設計の分析	③事業設計の妥当性	概ね高い	<p>自伐型林業推進協会との話し合いの中で、地域の広葉樹林を中心とした森林景観を改善するために、搬出した材の利用方法や搬出先を地域のニーズに合わせて確保していくということは、課題と対策がリンクしており、本事業のテーマとも合致しているという意見となった。一方で、薪販売のビジネスにおいては、自伐型林業推進協会の関わりのある「木の駅プロジェクト」の事例などへの視察等も行いながら、販売ロットの検証、販売の仕組み化などの検証を行っていく必要がある。</p> <p>短期アウトカムの設定の中で、より自伐型林業を通じて、いかにネットワークを構築し、域内で展開し、広めていけるかどうかということが重要であるという指摘もあったことから、指標の修正も検討した。現時点では、まだ自伐型林業を実際に行うためのフィールドが確保されていないことから、そのフィールド確保が急務であり、今後の事業展開として、そのフィールドで道づくり等の研修を行い、多くの町内事業者等に参加してもらい、それぞれの事業地で自伐型林業を展開してもらえるような将来像を描いていく方向に修正検討を行っている。</p>
	(④事業計画の妥当性)		

#### 事業計画の確認

##### 重要性（評価の5原則）

本事業を通して達成したいことは、食とエネルギーの自給という大きなコンセプトの中で、森づくりや自伐型林業という手法を通じて、地域の森林資源の利用量が増えること、利用したいと思う町民や関係者が増えることである。そのため、一つの指標として、薪ストーブユーザーや薪ストーブを利用したいと思う人がどれくらいいるかということも重要な指標になると考えられる。

#### 今後の事業にむけて

##### 事業実施における留意点

薪ストーブユーザーの把握や利用量を検証するためにも、自治体や森林組合の協力を得ながら情報を集めていく必要がある。そのほか、原発事故の影響を受けた結果、木材の販路が限られるため、商品化をどのように進めていくか慎重に検討していく必要がある。

#### 添付資料